



「2009新なる旅立ち」前川 京美 (総務課)

新年のご挨拶



真部 朗

あけましておめでとう
 ございます。昨年は、沖
 縄防衛局に多大なご支援
 を賜り、誠にありがとうございました。

当局としては、本年も、沖縄において、我が国の平和と安全のため、我が国独自の防衛力である自衛隊と日米安全保障体制の中核を成す日米軍の活動拠点としての防衛施設を安定的に確保しつつ、防衛施設に起因する地元のご負担を除去し、また、それが叶わない場合であっても少しでもこれを軽減することを基本として、各種業務に邁進する所存です。

米軍再編の実施は、本年も最重要課題の一つです。普天間飛行場の移設を例に取れば、環境影響評価については、準備書等の作成が課題となりま
 すし、キャンプ・シュワブにおける関連施設の建設等も着実に進めていく必要があります。当局としては、これ以外にも海兵隊のグアム移転、嘉手納以南の土地の返還等を含む米軍再編が、全体として、我が国の防衛とともに県民のご負担軽減のために必要不可欠であるとの信念の下、県民のご理解を得ながら一刻も早く目に見える成果を積み上げていきたいと考えております。

なお、防衛施設に係る業務に加え、「防衛セミナー」の開催等、我が国の防衛について県民に理解を深めていただくための努力も続けてまいります。

本年も何とぞ沖縄防衛局をよろしくお願い申し上げます。
 (沖縄防衛局長)



私は、元旦が誕生日なので、毎年、「おめでとう」との皆の声が、私に向けられているような錯覚を覚えます。

沖縄での勤務は昨年4月からの3回目、亜熱帯気候の暑さだけは変わりませんが、毎回歴史的に沖縄の状況が異なっています。20数年前は、那覇市を含め、まだまだ米軍住宅が残っており、沖縄瓦の住宅も多く見られたのですが、随分少なくなってきました。近々残された民家等は歴史的遺産となることでしょう。客観的には、沖縄文化が目に見える形で多く残っていて欲しいものです。

新たに興味をそそられたのは、沖縄の9カ所の世界遺産です。2000年12月に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として世界遺産に登録されたものです。前回離任後のことなので、新たに耳にした遺跡がありました。全てを走破していないので、今年の楽しみの一つとして、ぼちぼち歩きを考えてます。皆さんと共に、日々頑張る自らの時間を有効に活用出来るよう努力しましょう。

調達部 調達計画課 浦 正一

局職員からの ご挨拶!!



2009年 あけまして おめでとうございます。



あけましておめでとうございます。昨年、初詣のおみくじで5年ぶりに大吉を引き「次第に運が開く」とありました。その予言(?)もあってか2008年は沖縄防衛局へ入局という幸運を手に入れることができ、私にとって人生の大きな転機の年になりました。10月から自衛隊施設の財産管理業務に携わり、早3ヶ月が経ちました。最初、毎日頭の中は?ばかりでしたが少しずつ仕事の流れがわかるようになってきました。職員として初めての新年を迎えた2009年は成長できたと言えるよう日々先輩方に学び業務に取り組んでいきたいです。

管理部 施設管理課 城間 玲子



二〇〇九年は「現職を極め、今まで以上に頑張ること」、「健康に気を使うこと」、「人間関係を大切にすること」の三つの目標を掲げ、日々精進して行きたいと思っております。今年もよろしくお願いたします。

総務部 総務課 具志堅 匠

ハイサイ！新年明けましておめでとうございます。入局しまして九月が経ち、初めての年越しを迎えました。昨年は新規採用ということもありハラハラドキドキの毎日で刺激のある生活を送ることができました。仕事にもだいたい慣れ、要領も少しずつ覚え、総務課の皆さんと仲良く楽しく仕事をしたり年でありました。



業務的には、労務管理官室の庶務を初めて担当して不慣れなことを経験しましたが、縁の下の力となり、室員が円滑に業務が遂行できるように頑張ってきました。このことが、ひいては沖縄県内約九〇〇〇名の駐留軍等従業員みなさんの給与の支給や快適に業務ができる職場環境ができるなど、日米間にとって有益なものとなることを願っております。勿論、私の家族が一番の優先ですが、今年も昨年同様に皆様の益々の御多幸をお祈り申し上げます。

労務管理官室 平良 吉史

新年明けましておめでとうございます。昨年までは自由気ままな独身で迎えていた新年、今年は親子三名で楽しく正月を過ごしています。昨年三月に三線がとりもつ縁で嫁さんをGET。十二月には、長女が誕生して私の三十数年の人生のなかで最も充実した一年となりました。



私は今年20歳になります。平成元年生まれの早生まれですが、行動と言動がおっさん臭いせいなのか、平成生まれと言っても誰も信じてくれません。(笑) また、成人式というめでたい節目を迎え、ようやく大人の仲間入りを果たしました。

話は変わり、20歳になると共に入局10ヶ月目を迎えますが、まだまだ若輩者の私にとっては毎日が新鮮で、毎日が勉強という日々を送っています。今年も常に向上心を持ちながら業務に専念し、休日には三度の飯よりも大好きな釣りをやる等益々心身共に精進し、防衛施設行政に携わっていきたく思います。

企画部 施設対策計画課 親富祖 良太



7年前、公務員人生最初の地である沖縄から東京へ転勤したものの「泡盛が飲みたい」「沖縄そばが食べたい」と「沖縄病」に感染してしまい、昨年、やっと念願かなってこの島に戻ることが出来ました。

現在、私は自衛隊施設用地の取得業務を行っており、不動産鑑定評価の考え方など、土地所有者の方が納得できる説明をしようと日々努力をしておりますが…その前に、忘れてしまっているウチナーグチを思い出さないと、相手とのコミュニケーションも…でも「ナンクルナイサ」。

今年4月は、社会人としての新たな生活、そして生まれて初めて沖縄の地を踏んでから、ちょうど10年目の節目の年となりますので、第二の故郷とも言えるこの島での生活を満喫したいと思います。引き続きよろしくお願いたします。

管理部 施設取得第1課 井川 崇



明けましておめでとうございます。報道室へ来て2度目の年越しを迎えることが出来ました。昨年は、県民の皆様からの苦情や質問、マスコミの皆様からの問い合わせ等に対し、微力ながら一生懸命対応させていただきました。今年は、皆様からの声に対し、より適切な対応が図れるよう心掛けていきたいと思っております。

私事では、昨年10月に子供が産まれ、新しい家族が増えて初めての正月を賑やかに迎えることが出来ました。今年は、仕事とのバランスを保ちつつ、家庭での父親としての役割を全うできるように頑張りたいと思っております。

総務部 報道室 島袋 佑哉



いい。しかしながら、各課が個室化しているためか閉塞感を感じる(私だけかな?)。 当課は業務上外来者が相談や調整に訪れるので、職員は常々お役所的な雰囲気とならないように心がけている。その一例として、職員の機転・アイデアで、課内のドアや窓にちよっとした飾りを設け季節ごとに変えている。これは、外来者ばかりでなく、入室者に微笑みをもたらし和やかさを醸し出している。お堅いばかりでなくゆとりもありますよとの現れに役立っていると思っております。

局が嘉手納に移転し九ヶ月が過ぎた。通勤時間は那覇の時とさほど変わらず、むしろ混雑が避けられているのでゆとりを感じているが、通勤が遠距離になったとの思いから帰宅の時間が那覇の時に比べて早くなっている。今更ながら遠方者の通勤事情を理解する思いである。 さて、嘉手納の庁舎は何もかもが新しく気持ちがいい。 企画部 防音対策課 佐々木 勝



新年あけましておめでとうございます。

昨年は、キャンプ・ハンセン等において、例年に比べ山火事が多く発生し、局への状況報告、関係機関への情報提供等、その対応等におわれた年でした。

今年が丑年、丑(牛)といえ、力持ちで働きものの代表格として、かつて沖縄では農耕用として飼われ、農家にとっても貴重な家畜(今の若者には理解できないかも・・・)でした。しかし、近年は農業用機械が一般農家にまで普及してきたため、当事務所の所在する金武町周辺の田園地帯でもこのような光景は見られなくなり、少し寂しい気もしますがこれも時代の移り変わりでしょう。

当事務所も、今年の干支に因んで、複雑かつ困難な業務に遭遇しても、慌てず、騒がず、地域の方々の理解を得ながらお互いの信頼関係を築きつつ、所長以下職員一同一致団結し対応して参りたいと思っております。

金武防衛事務所職員一同



新年明けましておめでとうございます。

那覇防衛事務所が入居する那覇市泊の第一福琉ビルの近くには、国の重要文化財である「旧崇元寺石門」があります。崇元寺は、かつて琉球王国が、中国の冊封使(琉球国王であることを認めることを伝える使者)を迎えた時、先王の霊を弔う儀式を行った国廊であり、首里城での新王の冊封に先立ち、この寺で先王の霊位を祀ったとされています。

私ども事務所職員一同は、那覇防衛事務所開所2年目の年を迎えるにあたり、こうした歴史ある遺跡の近くに置かれている事務所の意義を常に認識の上、当事務所の機能・役割の礎を一つずつ確実に築いていけるよう、所掌業務の円滑な遂行と、管轄区域内における関係機関との更なる信頼関係の構築に務めていく所存であります。

本年も、那覇防衛事務所をよろしくお願いたします。 那覇防衛事務所職員一同



新年あけましておめでとうございます。

昨年4月に職場は引っ越しして来て、嘉手納町でのお正月を迎えました。私も同時に嘉手納町民として生活することになりましたが、過ごした中で発見した場所を紹介したいと思います。

嘉手納町と読谷町の境に比謝川が流れていますが、この川の左岸沿いに散歩道が作られており、この散歩道を散歩するのが私の毎朝の日課となっています。歩いていると迎える人同士で「おはようございます」との声が良く交わされます。

また、動物園でしか見れないと思えた、マングースや、オオコウモリが川の上を飛ぶ姿も良く見ることが出来ます。小鳥のさえずりを聞きながら熱帯樹の自然の残っている、この散歩道を歩くと気持ちが「スッキリ」します。夏の日中でも、やんばるまで行かなくても涼しく、ちょっと自然が見られる比謝川沿いの散歩道は、穴場ですよ。

今年も、さわやかな気持ちで良い朝を迎え、「スッキリ」と職場に出かけたいと思っております。 調達部 調達計画課 西村 辰朗

陸自 不発弾処理 3万件

沖縄県は、先の大戦において地上戦が行われたところです。大量の砲弾、爆弾が雨あられと投下され、県民はこの戦を「鉄の暴風」と言い表しました。沖縄不発弾等対策協議会などによると、この時の爆弾、砲撃弾等は20万トンにもおよび、そのうちの1万トンが不発弾であったと推察されています。



復帰前は米軍が、昭和47年の復帰以降は、陸上自衛隊が不発弾の処理にあたっており、昨年12月10日、陸自第1混成団の第101不発弾処理隊による処理件数が3万件を超えました。

同部隊は、この日、朝から浦添市などの工事予定地や農地などを回って現場保存されていた不発弾の回収作業を行い、与那原町の現場で3万件目となりました。

陸自が処理をはじめてから36年経ちますが、その間137万発、約1500トンの処理を無事故で行っています。



二瓶 博人1尉

県内には未だ2500トンの不発弾が残存していると推定され、その処理が全て終わるには80年かかるといわれています。

3万件目の不発弾処理を行った第101不発弾処理隊 隊本部班長 二瓶博人 一尉のコメント

「3万件は確かに一つの節目ですが、沖縄には今でも多くの不発弾が埋っています。気持ち新たに、安全・確実に処理を行っていきたいと思います。」

防衛セミナーin嘉手納

平成20年12月5日(金)、嘉手納町中央公民館で第3回防衛セミナーを開催しました。当日は、天候不良にもかかわらず150名の皆様にご参加いただきました。

テーマは前回に引続き「国際テロを根絶するために～インド洋での補給支援活動」として、外務省、海上自衛隊及び沖縄防衛局の講師が説明及び講話を行いました。

セミナー終了後回収したアンケートには「補給支援活動の必要性と重要性が具体的によく理解できた」、「報道等では知ることのできないことを知ることができてよかった」という感想や、「もっとわかりやすくするためにもうひと工夫を」というご要望もいただきました。

沖縄防衛局は、いただいたご要望等を踏まえながら、引き続きセミナーの開催を予定しておりますので、一人でも多くのご参加をお待ち申し上げます。



「摩擦」&「バランス」

労務管理官 多良間 吉高



寒い日の朝
出勤前の湯船
の中のこと、
ふと、「この
地球上で目ま
ぐるしく起っ
ている様々な現象の源は何だろう、
何か共通なものが働いているので
は。」との疑問が湧き、瞬時に頭を
よぎった言葉は「摩擦」でした。

「摩擦」という言葉にあまりよい印象をもたれていない人が多いと思いますが、この摩訶不思議なもの、良きにつけ悪しきにつけ、地球上のあらゆる現象を引き起こしているのではないだろうかという考えが直感的に思い浮かんだのです。

地球誕生以来、いん石の衝突、地殻変動、雨、風、雷等々いわゆる無機質なるものが気の遠くなるような長い年月をかけて「摩擦」を繰り返し、その結果、生命体が出現、その後も自然界における様々な「摩擦」が絶妙な「バランス」のもとにその進化を促し、最高傑作である人類を出現させたのだと思われまます。また、人類が発明した航空機などの様々な文明の利器も、「摩擦」をうまくコントロールするという研究の成果であると思

われます。

一方、人類の出現は、人類自身にとつて真に厄介な「第二の摩擦」を包含していました。これまでの「物理的な摩擦」とはまったく異なる「精神的な摩擦」です。この「第二の摩擦」は、人の心の中、人と人、地域間、或いは国家間において大なり小なり存在し、これが大きくバランスを崩すと不幸な結果を招くこととなります。我が国では、連日報道されているように、凶悪犯罪やいじめなどが増え、実に憂慮すべき事態となつていますが、これもバランスを欠いた「摩擦」が原因ではないかと考えます。

日本人は古来から、すばらしい社会の実現を目指し、避けては通れないこの「摩擦」を「バランスのとれたものにするため、「道徳心」の大切さを時代を超えて伝えてきたと思います。その努力がいつのまにか薄れてしまつていいるのではないかと考える今日この頃です。

年頭に当たり、皆さんもこれまでの自分を振り返って、かつての貧しいながらも古き良き時代と言われていた頃を思い起こしながら、改めて「道徳」について考えてみてはいかががでしょうか。